

令和4年10月 30 日

ファーストペンギンかな？ 二アマ解説ビデオ作製

JARL渡島檜山支部

佐々木 朗 JH8CBH

1 やりたいなあと思っていたことはやれる

長いこと教員をやっていたということが、その理由になるかどうか、わかりませんが、やりたいなあと思ったことを「やりたいなあ。」で終わらせたくなくて、「やっちゃおう。」にしてしまった経験が結構あるなあと思います。

今テレビで、「ファーストペンギン」というドラマをやっています。なんかタイトルが気に入って、パソコンで見えています。ペンギンには、お猿さんや鳥のようにリーダーはいないそうです。でもよちよちみんな並んで歩くような光景を見ますが、最初の一匹について行っているそうです。海の中に飛び込むのも同じ。最初の一匹が意を決して飛び込むと、後のペンギンたちも次々に飛び込むということです。でも最初の一匹だって、海に飛び込むのは初めてでしょうから、一発で大きな魚に食べられるかもしれないという不安を持ちながら勇気をもって飛び込んだことが容易に推察できます。自ら第一歩を踏み出す人、これをファーストペンギンという言葉で表すそうです。

自分の小さな人生を考えると、結構ファーストペンギン的なことはやって来たなあと思います。子どもの頃は、決してそんな人前にでる子どもではなく、いつも誰かの後ろにいたタイプです。子どもの頃、

アマチュア無線でたくさん大人の大人の人に、いろんなことを教えてもらったこと、また、大学でパソコンを習得し、次々とプログラム開発に力を入れていったことなどが原点になるのかなあと思います。

教員になってからも、専門の状況教育で、ずいぶん「初めて」を始めました。もつとも、情報教育自体が新しかったのでやることなすこと、初めてというのも当たり前の話かもしれませんが。私は、研究会の事務局長として、常に新しいことを考え、実行に移してきたこともあり、「思ったことは、言う、やる。」というふうにだんだん変わってきたように思います。名刺に書いてある、「人生で悔いを残すのは、してしまったことではなく、しなかったことである。」もこのへんにあると思います。

こんなことを仕事でも無線でも、地元の活動でもやっているうちに、「やればできるじゃん。」と思うようになったわけです。

2 次はどんなことをやろうかな。

今、一日のうちの半分以上は、アマチュア無線のことを考えていると思います。自分は、アンテナもある程度いっちょ前、パワーもいっちょ前でこれ以上グレードアップありません。ですから、方向性としては、いつも言っていますが、「アマチュア無線の振興発展のために自分が何ができるか。」を考えることであり、それが

私の生き方でもあります。

最近では、アワードのWEB即日発行や、ZOOMのモールス講習会などが、まあ、一定の成果を上げ、もしかしてファーストペンギンの部類に入るのかなあと思っています。ファーストでなくても、何番目ペンギンでもいいのですが。一つ一つの事業は、もちろん私一人の力ではできるものではなく、多くの協力者がいたわけで、その企画を受け入れて下さった多くの皆さんがいてこそ成り立ったということは、いう間でもありません。

結構全国の皆さんからメールをいただくこともあるのですが、「また新しい企画あったら教えてください。」みたいな励ましもありました。

そこで、おそらくまた携わることになるであろう今度のZOOMモールスまで、何をしようかと思いついたのが、ニアマ解説ビデオの作成というわけです。それと、ニアマ勉強会です。ニアマ勉強会の方は、参加希望が0なので実施できませんでした。まあ、こういう企画倒れも多々あります。

3 私のスキルアップ

私は中三で、電話級(今の四アマ)、高一で、電信級(今の三アマ)を国家試験で取りました。CWこそ、ばりばりできましたが、ずっと三アマでした。「電信できるから、いいもん。」でしたが、これは、自己弁護に過ぎず、きちんと上級試験にむけて勉強しない自分の言い訳に過ぎなかったのです。

家庭も持ち、家を建てることになり、私の頭は、タワーであり、HF の八木アンテ

ナであり、また、パワーアップでした。そこで初めて、「よし、勉強するぞ。」となったわけです。

当時は中学校の先生だったので、帰りは夜の7時、8時でした。それでも、それから毎日最低一時間は勉強しました。まだ、当時は若かったので、勉強したことはだいたい頭に入りました。過去問は絶対落とさない自信がありましたし、新問題でも、ほぼ大丈夫位の自信のもと、札幌で試験を受けました。実際に試験をやってみて、全く落ちることは考えられないぐらいにできました。目標達成と思って安心していたところですが、札幌の試験会場で一緒になり、帰りが一緒だったローカル局に「佐々木さん、次も行こうよ。」ということで、次の春(当時は年に2回の試験でした。)、一アマを受けました。こちらももちろん勉強しました。丸暗記したのは一問か二問で、あとの計算問題などは、数値がどう変わっても解けるぐらいまで勉強しました。こちらも落ちる気はせず、合格となりました。

調子に乗ってしまう性格なので、一アマがあると、パワーも出したくて、ついつい500w取得へとなり、ついに1KWへとますますアマチュア無線への道へはまっていきました。

4 本当にアマチュア無線の好きな人はきちんと免許を取るものだと思います。

その昔、「Japanese 10w」という言葉がありました。日本の局の10wはものすごく強い。」ということです。裏を返せば、日本は、オーバーパワーだらけであるということです。

今、「Japanese 50w」という言葉こそ聞いたことがありませんが、50w機よりも100w機が売れるという現実から考えても、オーバーパワーをしている方いないと言う方が、かなり無理がありそうです。

私は、本当にアマチュア無線を愛している人は、アマチュア無線自体を傷つけることになる違法なことはしないと思いますし、さらなる自己自身のスキルアップもされる方だと思います。

華々しくデビューし、たくさんの交信を続けても、再免許が近づく頃には、無線の熱もすっかり下がり、過去の趣味になってしまっている方を、私の長いハムライフの中で数多く見えています。ただ、毎日アクティブにオンエアしても、それだけでは、どうしても飽きというものが来るのだなあとと思います。使われず、屋根上に放置されたアンテナがかわいそうになってしまいます。

一方、自分の得意分野を見つけて、さらに自分を磨こうとする人は、ずっとこの趣味を続けているのかなあとと思います。だいたい何十年もやっている人は、得意分野を持っています。

私なんかは、ただしゃべっている時間が多く、前述の例で言えば、危ない部類に入るのかもしれませんが、自分にできることはないかと常にリサーチしていることが、アマチュア無線へのモチベーションを意識することにつながっているのかなあとと思います。

今回私の願うのは、ライセンスをアップさせるという一つの方法で、自分自身を磨いていこうという方へ、もしかしてお手伝いになればなあと始めてみました。

第四級、第三級が初級ライセンスだとすると、第二級、第一級は上級ライセンスと言えます。上級ライセンスを取得して、今までの「アマチュア無線を楽しむ」という立場から、それに加え「アマチュア無線を守る、発展させる」という自覚も生まれてくることを期待したいと思います。資格



の裏付けが、交信や技術、アマチュア無線の発展を願うふるまいなどに出てきたら素晴らしいと思います。

私は、こんな偉そうなことを言える人格ではありませんが、気持ちは、上記の通り、いつもアマチュア無線全体の発展を願って、頭を使っている毎日ですよ。

5 「できるかな」っていうより「解けるかな。」という不安で始まりました。

まず、私の体験を話します。私は、問題集、つまり過去問をひたすら勉強しました。三角関数や微分、積分、対数・指数、虚数も高校ではだいぶ勉強しました。

今でもたまーに使うのはせいぜい三角関数と対数ぐらいでしょうか。難しい公式を見ても、当時もそうだったのですが、今でもちんぷんかんぷんです。

それでも、たぶんほぼ全問正解で合格できたのは、なぜか。それは、覚え方にコツがあるんじゃないかと考えたわけです。ずるい話かもしれませんが、正しい理屈に沿っていなくても、こういう問題はこうやって解くというやり方がたくさんあることを当時勉強してわかりました。「一アマ、二アマの全ての電気理論はしっかり押さえています。」なんて言う人は、ほよどの専門家でない限りいないと思います。それでも十分合格できるレベルであると私は思っております。

合格した人は、どうやって勉強していたのでしょうか。JARL NEWSなどを見ると支部で勉強会などが開かれるという記事を見たことがあります。すばらしいことだと思います。でもそうそう何回も開けないでしょうから、あとはひたすら自分で勉強というパターンではないでしょうか。頼りになるのは、問題集、解説書、ネット情報、ローカル局などでしょうか。ローカル局も昔、上級免許を取った方は、「もう忘れて今じゃ、解けない。」言われた意見あるのではないのでしょうか。私も、もしかしたらそう言っていたかもしれませんので、何となく気持ちがわかる次第です。

なんか頼りになる情報があると勉強しやすいのかなあと思いついたのが「解説ビデオ」。でも述べたように、最初は「解けるかなあ。」だったのです。一つ一つの問題について、自分が勉強した時のように、過去問を調べて、それにならって、

解いてみました。インターネットがなかった当時に比べて、今は、あらゆる情報が手に入るのととても便利な時代になったなあと思います。

難しいものを難しく教えるのは、わかりやすく教えたことにはなりません。難しいことをやさしく、やさしいことを深く教えることが、「教える」の鉄則です。

そんなことを思いながら、まず、自分で解いてみました。常識問題的にすぐ解けるものもありました。皆さんにとっても、おそらく初見でも解ける問題が何問かあるはずです。「反射波のない時のSWRは0である。」などは普段無線をやっている人は、絶対に「0でなくて1だろ。」とわかりますよね。それと、言葉を読み込んで、自分の電気知識と合わせて、何とかなった問題。コンデンサにたまる電荷は、「二つの電極が近ければ、また、距離が短ければ、たくさん電荷がたまるだろうなあ。」と読み解いていけば何とか答えを導き出せる問題も結構ありました。ややこしくてもオームの法則を確実にあてていくと答えを導き出せる問題もありました。一方、まるつきし見たことのない問題もありました。PLLの問題などです。こういうのは勉強するしかありません。でも同じPLLも手を変え品を変え出てきましたので、今ではだいたい解けるようになりました。

それと、あくまでも素人なので、調べてもわからなくて、どうしても意味不明なものもありました。そういう問題に対しては、正直に「こうなるの、だそうです。」という言い方にしました。

ということで、最初に手を付けた今年の8月問題は、かなりてこずりましたが、合

和に入った頃の問題になりますと、半分ぐらいの時間で解けるようになりました。

何とか、多少「なんちゃって」が入りますが、「解説ビデオを作れそう。」になってきました。

6 ビデオ撮影開始

蛍光灯にビデオカメラを輪ゴムで止め、簡易スタジオ？で撮影開始です。A3の大きさに印刷した問題を映しながら、そこに赤ペンで解き方の解説を書き込んでいくスタイルです。右側の方(カメラには



映っていませんが)には、事前に私が解いた手順書を置いてあります。

一問一問解いていきます。計算問題もはしらないで、筆算の部分も撮影します。魔法みたく解けたという印象がないようにするためです。時々間違えて、ちょ

っと前に戻ることもあります。あんまりひどいのは取り直しをしています。ビデオが一瞬切れた跡があるものは、「ここでとちったんだなあ。」とさせていただければと思います。

ということで、原則取り直しはしておりませんので、多少お見苦しい点もあろうかと思えます。また、つかかかるところは、もしかして見ている方も同じ所で、間違える可能性もありますので、それはそれで、いいのかなあと思っています。

一つの問題を全て解説するのに、だいたい1時間ちょっとかかることがわかりました。陰では、この2から3倍の時間、勉強しているということを、ちょっとでもいいので、思っただけで嬉しいです。

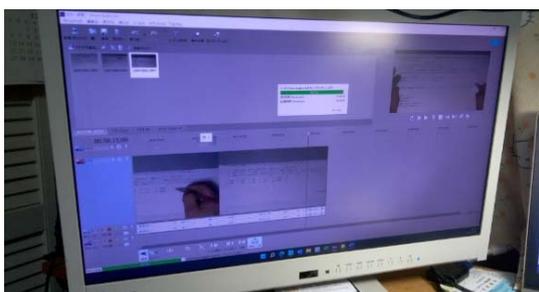
全部できたら、ビデオを並べて、MP4に出力します。画質をもう少し落とすのに、もう一度変換をかけています。最後にホームページに上げて、アップリンクしているという方法です。

ユーチューブとかの方法もありそうですが、やり方わかりませんし、広告が入るのもまずいかと思い、今の所、自分のサーバーに全て上げています。まだまだ、余裕がありますので、大丈夫です。

7 使い方

使い方は使う人の自由なのですが、いきなり見ても理解できない問題があると思います。ですから、ビデオで勉強される方は、必ず自分の目で問題に触れて、自分の手で解いてみてください。そうすることによって、問題を読み込むことになり、解説の効果も大きくなってくると思います。

計算問題は、見るだけでは絶対に解けるようになりません。解き方が頭に入ったら、一度回りの物をしまつて、自分の力で解いてみてください。解けなかったら、解答を見て最後まで解いてください。そして、もう一度、自分の力で解いてみてください。これが計算問題を確実に攻略する方法です。



また、解説の中で、問題以外にも時々、関連するお話もしておりますが、たくさん問題に触れてきた経験からくる大切なポイントです。ノートに書き留めるなどできたらいいと思います。

8 最後に

電気とは全く違う仕事に就いていて、また、難しい電気理論をほとんど使うことなく、SSBとCWでがんばって来た私ですが、だいぶ解けるようになってきました。今試験を受けても落ちる気持ちが全くありません。

「二アマは、難しい。」「俺には無理だ。」「三アマで十分。(本当は二アマがほしくてしょうがないんじゃないでしょうか。)」という方も、試しにちょっとビデオを見ていただき(本格的に勉強する時は前述の通りです)、「もしかして、少し勉強したら何とかなる？」みたいな感覚をつかんでいただければ幸いです。

冬になれば、また、モールズ講習会が始まるかもしれません。それまでは、ビデオ作りという企画をもう少し進めてみたいと思います。また、まず、工学を中心にやっていきますが、法規の方も時間があればもっと手を付けていきたいと思ます。

皆さんのスキルアップにつながれば、そして、述べたようにアマチュア無線を楽しむに加えて、アマチュア無線を守る、発展させる人材が育つことにつながれば、至上の喜びです。

解説ビデオは、
<http://www.eduhakodate.jp/sasaki/jh8cbh/skillup/>
にあります。

(2022/10/30 佐々木 朗)

